

都道府県別賞一等

保険と祖母のおもい

佐賀県 吉野ヶ里町立東脊振中学校 三学年

原 若菜

私は、今まで生命保険について、ほとんど知識がありませんでした。ただ病気やケガをした時に助けになるものだということがぐらいいしかりませんでした。

そこで、保険について調べることにしました。人間の生存、または死亡による経済的損失の保障を目的とするもの、年齢とともに高まる病気や死亡の危険を保障するための仕組みと書かれています。生命保険契約の形態は一四〇〇年代のイタリアで登場し、近代的生命保険の成立は、ハレーすい星で有名な天文学者のエドモンド・ハレーが、人間の寿命を統計化した生命表を作成したことで、年齢ごとの亡くなる人数（死亡率）がおおむねわかるようになり、合理的運営が可能となったことからありました。六〇〇年も前に、保険が考えられていたことにとってもおどろきました。また、日本では、どの位前にはじまったのだろうかと思い、調べてみました。

日本では、慶応三年、福沢諭吉の『西洋旅案内』で生命保険について紹介されたことが発端となり、誕生することになったそうです。また、保険の種類も多くあること、大切な人や自分を守るために入る人が多いことを学びました。

こうして調べているうちに、むかし私の祖母が私のために、私が生まれてすぐに、こども保険に加入してくれたという話を思い出しました。

しかし、祖母がどんな思いで加入してくれたのかなど考えたこともありませんでした。祖母は生前から、私の将来を楽しみにしていました。毎日、小学校に入ったら、高校生になったらうれしそうに話していたことを思い出しました。保険について調べる中で、祖母が私を大切に思い、成長を楽しみに、何かあっても私が困ることのないように入入してくれたのだとわかりました。

祖母は、小学校入学直前に突然亡くなってしまいました。今でも、その思いを引き継ぎ母が支払いを続けてくれています。

保険とは、誰かを大切に思い、大切な人を支え、守るためにあるのだと学びました。

第55回中学生作文コンクール

今まで、保険など、私には関係ないことだと思い、考えたことなどありませんでしたが、今回の作文を通して、保険のはじまりや歴史などを学ぶことができ、また、祖母の私への思いを知るきっかけになりました。祖母への感謝を忘れずに、大切に使おうと思えました。そして、自分にも大切な人ができた時、保険に加入してみようかなと思いました。